

子供が輝く東京・応援事業

【実績連動型助成（既存の取組のレベルアップ）】

研修会

2021年11月16日・17日

本研修会の目的

- 子供が輝く東京・応援事業【実績連動型助成(既存の取組のレベルアップ)】への応募を検討している団体の方に、本事業における成果評価について理解を深めていただくこと。
- 特に、成果評価の主要ステップである、「ロジックモデルの作成」及び「成果指標の設定」を実際に体験していただくことで、成果評価の作業のイメージをつかんでいただくこと。

公募スケジュール

- ◆ 本事業は、応募者に対して、コンサルタントによる評価設計の支援機会が2回、以下のタイミングであります。

令和3年	10月26日	応募受付開始
	11月16日、17日	研修会
	11月30日	応募受付締切
	12月上旬～12月中旬	書類審査
	12月下旬	総合審査(プレゼンテーションによる審査)対象者への連絡
令和4年	1月上旬～1月下旬	個別相談(1団体2回実施)
	2月上旬	総合審査(プレゼンテーションによる審査)書類の提出
	2月下旬～3月上旬	総合審査(プレゼンテーションによる審査)
	3月中旬	助成対象事業者決定、交付申請、交付決定
令和4年	4月～	事業実施
令和5年	3月末	実績報告、成果評価、助成率の決定

※ 上記スケジュールは、事業実施期間が1ヶ年度の場合。2ヶ年度の場合の1年目は、実績報告までであり、2年目は交付申請から助成率の決定までとなる。

構成

東京都福祉保健財団より説明

I	本日の進め方及び成果評価のステップの説明	10分
II	ロジックモデルの作成	70分
	グループワーク	(55分)
	発表	(10分)
	ロジックモデル例のご紹介	(5分)
	— 休憩 —	10分
III	成果指標の設定	40分
	グループワーク	(25分)
	発表	(10分)
	成果指標例のご紹介	(5分)
IV	補足説明	15分

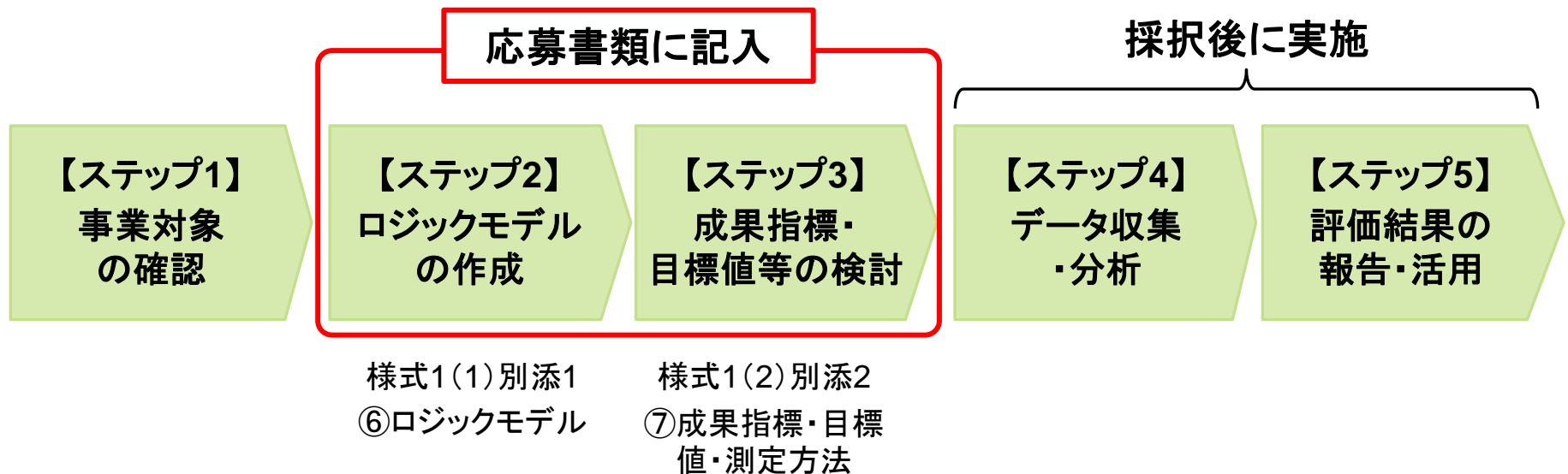
I 本日の進め方及び成果評価のステップ の説明

1. 本日の進め方

- 1テーブルを1グループとし、グループごとに話し合いながら ①ロジックモデルの作成、②成果指標の設定の作業をしていただきます。
- コンサルタントが、テーブルを回りながら作業を確認いたします。グループワークの途中でご質問があれば挙手でお知らせください。
- ①ロジックモデルの作成、②成果指標の設定ごとに、いくつかのグループにグループワークの結果を発表していただきます。

2. 成果評価のステップ（全体像）

- ◆ 成果評価は次のようなステップで実施します。
- ◆ このうち、ステップ3までは応募段階での検討が必要です。



2. 成果評価のステップ

【ステップ1】 事業対象の確認

【ステップ1】
事業対象
の確認

【ステップ2】
ロジックモデル
の作成

【ステップ3】
成果指標・目
標値等の検討

【ステップ4】
データ収集
・分析

【ステップ5】
評価結果の
報告・活用

◆ 事業対象となる、受益者や事業対象期間を明確にします。

項目	概要	例
受益者	事業の受益者は誰か、人数はどのくらいかを明確にする	<ul style="list-style-type: none">●●区に住み、働きながら未就学児の子供を育てるお母さん△△名●●(テーマ)に関心がある10代～20代の若者△△名
事業対象期間	事業の評価対象となる期間を明確にする	2021年4月～2022年1月 <ul style="list-style-type: none">研修会を○回開催研修会参加者に対しワークショップを△回開催

2. 成果評価のステップ

【ステップ1】
事業対象
の確認

【ステップ2】
ロジックモデル
の作成

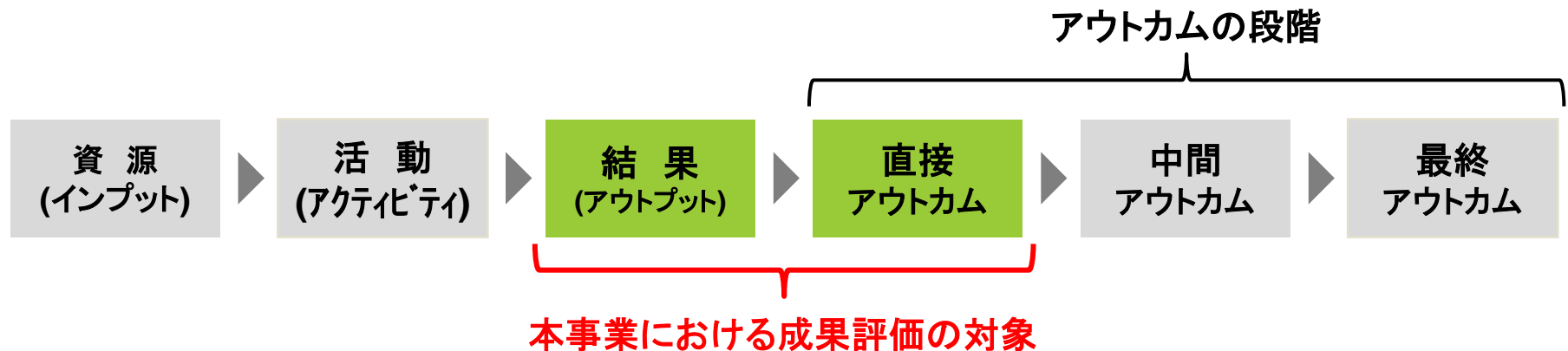
【ステップ3】
成果指標・目
標値等の検討

【ステップ4】
データ収集
・分析

【ステップ5】
評価結果の
報告・活用

【ステップ2】ロジックモデルの作成

- ◆ ロジックモデルは、事業のゴールに至るまでの一連の流れを示した図です。
- ◆ 助成率決定の判断基準になるのは、このロジックモデルに示される、「アウトプット」と「直接アウトカム」です。



「資源(インプット)」「活動(アクティビティ)」「結果(アウトプット)」「成果(アウトカム)」の関係は、上図のように一連の流れ図のような関係にあります。

- ・ 資源 (インプット) : 資金、人員、場所・施設等、事業の実施に必要な投入物
- ・ 活動 (アクティビティ) : 事業者が実際に従事する具体的業務
- ・ **結果 (アウトプット)** : 事業者の活動により生み出されるサービス等の実績
- ・ **成果 (アウトカム)** : 結果(アウトプット)により生み出される社会的・環境的な価値

2. 成果評価のステップ

【ステップ2】ロジックモデルの作成

【ステップ1】
事業対象
の確認

【ステップ2】
ロジックモデル
の作成

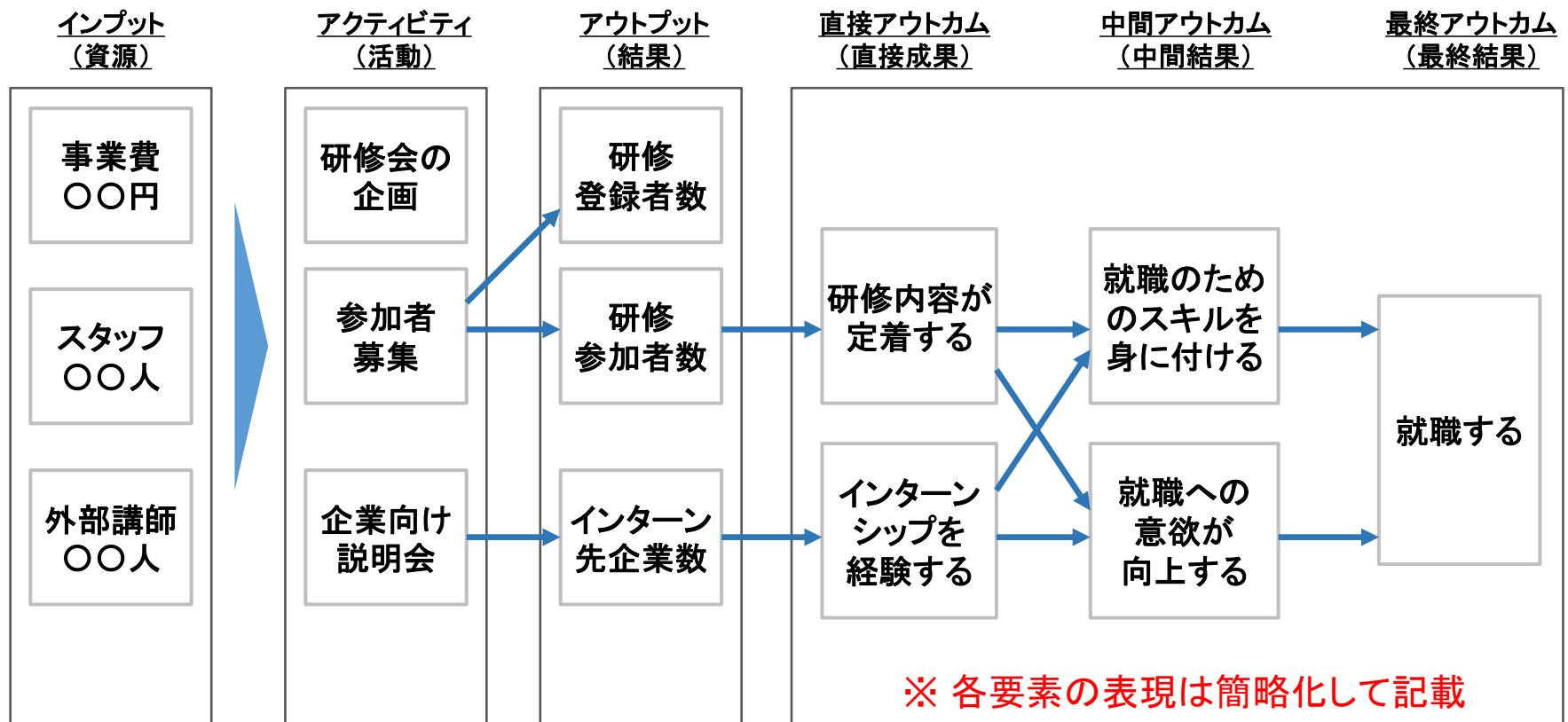
【ステップ3】
成果指標・目
標値等の検討

【ステップ4】
データ収集
・分析

【ステップ5】
評価結果の
報告・活用

◆ ロジックモデルの様式に事業の活動、結果、及び、成果を示します。

ロジックモデルイメージ（生きづらさを抱えた若者への就職支援事業）



2. 成果評価のステップ

【ステップ1】
事業対象
の確認

【ステップ2】
ロジックモデル
の作成

【ステップ3】
成果指標・目
標値等の検討

【ステップ4】
データ収集
・分析

【ステップ5】
評価結果の
報告・活用

【ステップ2】ロジックモデルの作成

- ◆ ロジックモデルの様式に、応募事業におけるインプット、アクティビティ(活動)、アウトプット(結果)、直接・中間・最終アウトカムを示します。

様式1(1)別添1 ⑥ロジックモデル

インプット (資源)	アクティビティ (活動)	アウトプット (結果)	直接アウトカム (直接成果)	中間アウトカム (中間結果)	最終アウトカム (最終結果)

Ⅱ ロジックモデルの作成

1. 自己紹介

◆ グループごとに簡単な自己紹介をしてください。

- お名前
- ご所属
- 最近最も気になったニュース

2. 評価対象事業

- 皆様は『NPO法人子供の輝き協会』（以下、「協会」といいます。）のスタッフという設定です。
- 協会は、次のようなミッションを掲げて活動しています。

全ての子供が輝く社会を作る

- ・ 子供の心と体の健康を維持・増進する
- ・ 子供の想像力・創造力を育む
- ・ 子供が社会の中で他者との関係を築きながら生き抜く力を育む

2. 評価対象事業

- 協会では、近隣の小学生のために様々な放課後教室を開催しています。
- 協会では、これまでに室内での学習や文化プログラムに注力をしてきており、ボールや遊具を使ったスポーツについては、専任の指導員は配置せず、室内の多目的室で子どもが自由に行うようにしてきました。しかし、近年、子供数の増加に伴い、多目的室が手狭になり、子供が十分にスポーツを楽しむ環境を提供することができなくなっていました。
- この地域の小学校では、近年、子供の体力づくりに力を入れており、地域のスポーツイベントに積極的に協力して参加者を増加させるなど、学校全体でのスポーツへの取り組みを積極化させ、スポーツに参加する機会を増やしてきました。その結果、子供たちに体力面での効果だけではなく、勉強にも積極的に取り組む傾向が見られるようになりました。

2. 評価対象事業

- 協会では、以上のような状況とこれまでに保護者から寄せられた意見をもとに、子供の体力づくりに力を入れることにし、放課後教室の中に運動遊びを取り入れることにしました。
- 運動遊び教室では、専任のスタッフを配置して、学校の校庭や近隣の公園を使い、子供たちが遊びの要素を取り入れながら創意工夫をして、体を思いきり動かせるような運動遊びプログラムを開発し、実施します。参加は登録制で、週に2回開催します。
- 協会では、説明会の実施や参加者の募集からプログラムの開発・運営に至るまで、独自に事業を実施しています。
- 運動遊び教室は登録制で、声掛け対象は近隣の小学校に通学する児童約1,200名です。
- 本事にかかる経費は1年間で1,000万円です。
- スタッフは5名で、運動遊び教室の開催にあたっては他に専門指導員を配置します。

2. 評価対象事業

【ステップ1】事業対象の確認

- ◆ 事業対象となる、受益者や事業対象期間を確認します。これらが、成果評価を実施する際の対象になります。
- ◆ 本研修では、以下のような仮定を置きます。

受益者	近隣の小学校区の児童約1,200名より、 登録制で募集 (登録には保護者の許可が必要)
事業実施期間	1年間

3. グループワーク

【ステップ2】ロジックモデルの作成

- ◆ ロジックモデルはインプット側から作成する方法と、最終アウトカム側から作成する方法があります。
- ◆ 今回は最終アウトカム側から作成します。

1. 協会の事業が目指す「最終アウトカム」の設定

- グループでの議論により最終アウトカムを設定してください。
- 最終アウトカムは1つに絞る必要はありません。

2. 「中間アウトカム」、「直接アウトカム」の設定

- 最終アウトカムを実現するために、その手前で何が必要か(どのような変化をもたらす必要があるか)を各自でポストイットに記入してください。
- それぞれが書いたポストイットを模造紙に貼りながら、最終アウトカムに至るまでの段階や因果関係を考慮しながら整理してください。

3. 事業の「インプット」、「アクティビティ」、「アウトプット」の整理

- インプット、アクティビティは事業内容から想定してください。
- アウトプットは、アクティビティの直接的な結果としてもたらされるものを議論しながらポストイットに書いてください。

4. インプットから最終アウトカムまでの関係性の確認

※ アウトカムは「誰が」「どうなる」を具体的に書いてください。

4. 発表

◆ 2～3程度のグループに発表していただきます。

5. ロジックモデル例のご紹介

Ⅲ 成果指標の設定

1. 説明

【ステップ1】
事業対象
の確認

【ステップ2】
ロジックモデル
の作成

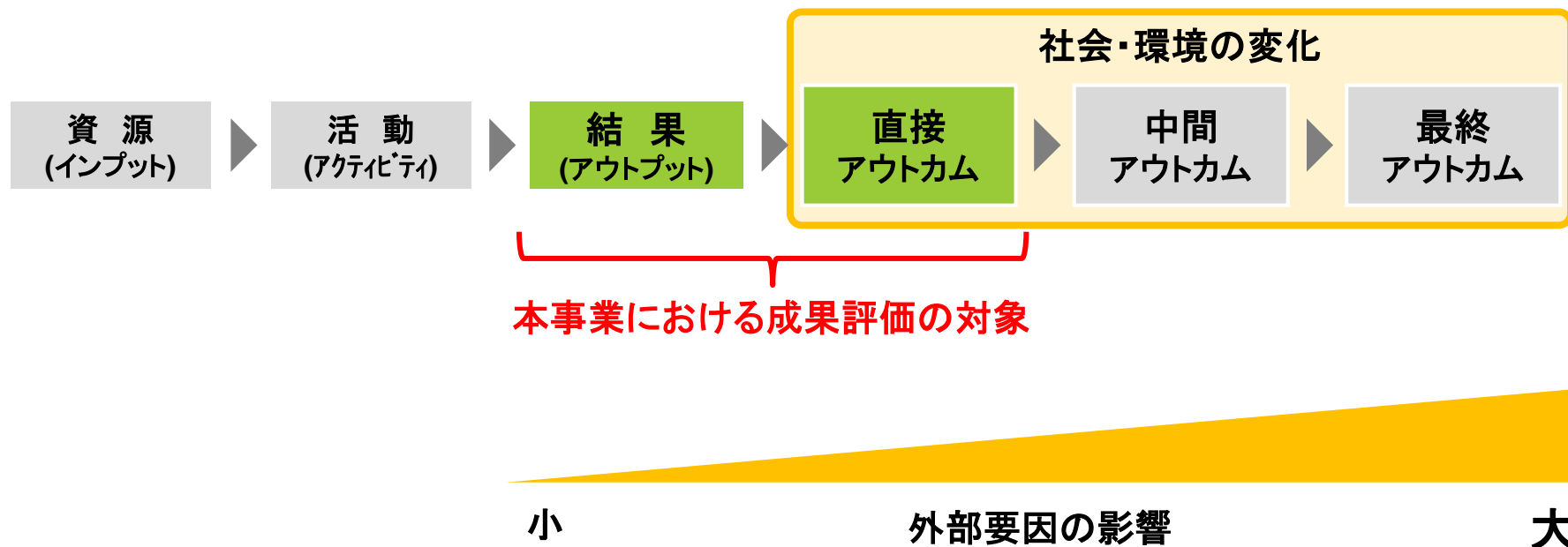
【ステップ3】
成果指標・目
標値等の検討

【ステップ4】
データ収集
・分析

【ステップ5】
評価結果の
報告・活用

【ステップ3】成果指標・目標値の設定

- ◆ 成果指標はロジックモデル上の各要素に設定することができます。
- ◆ 助成率決定にあたっての評価対象となるのはアウトプットと直接アウトカムです。

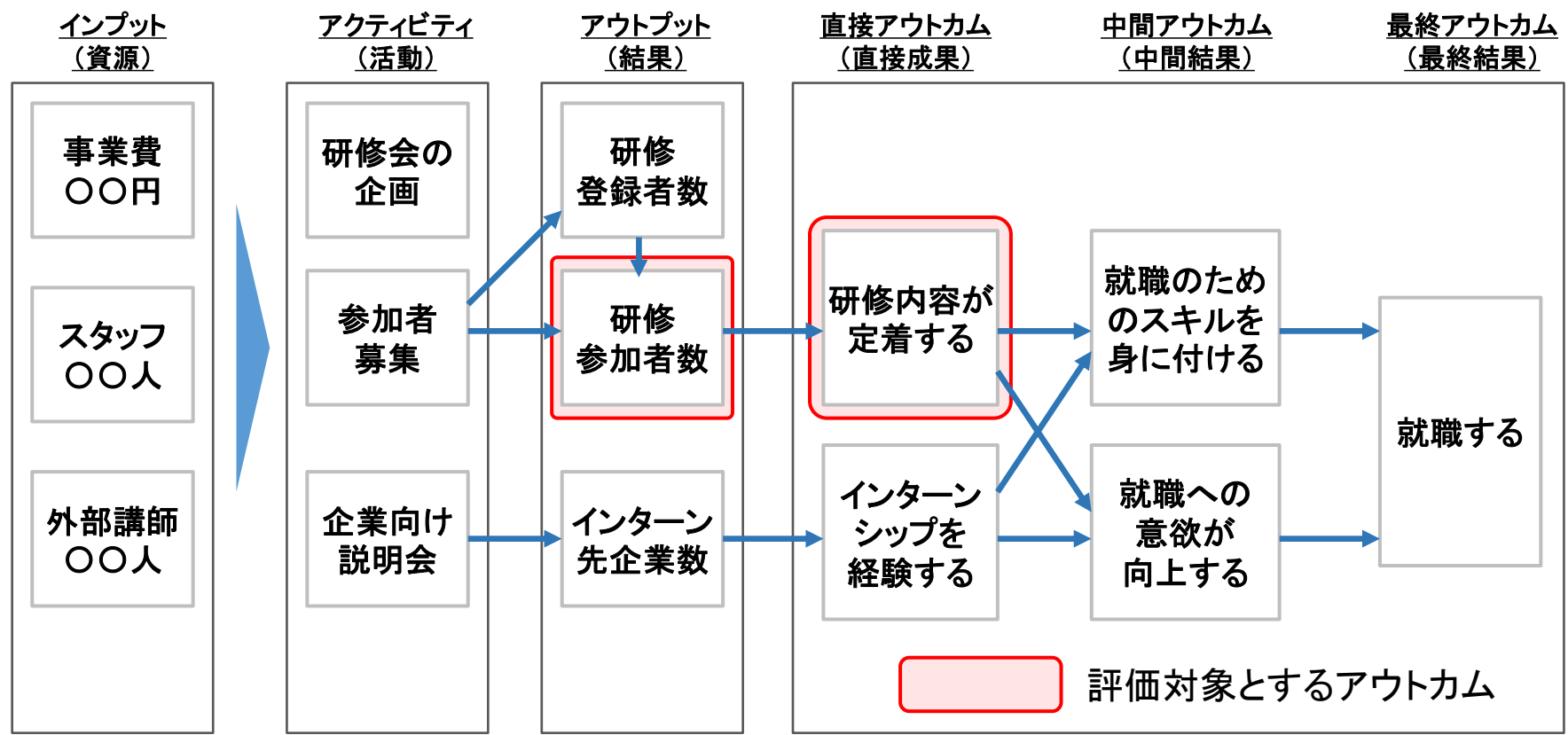


1. 説明

【ステップ3】成果指標・目標値の設定

◆ ロジックモデルの様式に事業の活動、結果、及び、成果を示します。

ロジックモデルイメージ（生きづらさを抱えた若者への就職支援事業）



1. 説明

【ステップ3】成果指標・目標値の設定

- ◆ ロジックモデルに示したアウトプット及びアウトカムの達成状況を測る指標を設定します。
- ◆ 実際の様式では、定義／計算式、目標値、目標値設定の根拠、エビデンス、データ収集方法も記入します。

様式1(2)別添2 ⑦成果指標・目標値・測定方法

グループワーク		指標	定義／計算式	目標値 (事業実施 期間終了時の 達成目標値)	目標値設定の根拠	エビデンス (目標達成を 測る根拠資料)	データ 収集方法 (具体的な 収集データ、時期)
ロジックモデル内の アウトプットおよび 直接アウトカム							
指標 1 アウト プット	研修会 参加者数	研修会 参加者数	1コース全10回の 研修会に8割以上 出席した実人数 (欠席した講座につ いては別日に代替 講座を受講)	20人	これまでの事業では年間約30人 の登録者のうち、1コースで8割以 上の回に参加するのは半分程度 であったが、今年度は代替講座 を設けるとともに、フォローアップ も強化してこの割合を高める。	登録者 データベース (研修会へ の出席状況 を記録して あるもの)	研修会実施の たびに記録し、 毎年度末に 集計
指標 2 直接 アウト カム	研修内容が 定着する	修了テスト 合格者数	研修会参加者数 に数えられる人の うち、修了テストに 合格した実人数	14人	これまでの事業により、研修会 終了後に実施するテストに合格 するのは6割程度であった。今回 は、研修参加者へのフォローを 強化し、修了テスト合格率を7割 程度に高める。	修了テスト 受験者・ 結果一覧	毎年度末に 集計

2. グループワーク

【ステップ3】成果指標・目標値の設定

◆ 次の手順に従い、配布した様式(成果指標一覧)に記入してください。

1. 作成したロジックモデルの「アウトプット」と「直接アウトカム」のそれぞれから1つずつ、指標を設定する対象を選んで表に記載してください。
2. 選んだ直接アウトカム、アウトプットそれぞれに対し、どのような指標を設定するか検討してください。

3. 発表

◆ 2～3程度のグループに発表していただきます。

4. 成果指標例のご紹介

IV 補足説明

1. 成果評価のステップ

【ステップ4】データ収集・分析

- ◆ 評価に使う主なデータには以下のようなものがあります。
- ◆ 評価を行うのは事業実施後ですが、どのようなデータを集めるかは事前に計画しておく必要があります。

主な情報源	概要
事業(内部) データ	事業者が事業実施の過程で収集するデータ 例：研修会参加者数 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>オンライン開催の場合</u> 研修の終了時アンケートの回答者の名前と数 ・ <u>対面開催の場合</u> 研修の受付で参加者のサインをもらった人の名前と数
統計データ	公的な統計を始めとする既存の統計データ 例：人口、出生率、労働力率
アンケートデータ	受益者等に対して質問票を配布し、その回答を集計したもの

※ 目標の達成度で評価を行うため、アウトプット・直接アウトカム指標について、実績値のエビデンス(目標達成を測る根拠資料)の提出をしていただきます。エビデンスとして個人情報が必要な場合には、必要な措置を講じてください(公募要項18ページ「11 事業実施における留意点」(2)その他⑥ 個人情報の保護参照)。

なお、財団へのエビデンスの提出にあたっては匿名化し、個人情報を含まない形で提出してください。

2. 成果評価のステップ

【ステップ1】
事業対象
の確認

【ステップ2】
ロジックモデル
の作成

【ステップ3】
成果指標・目
標値等の検討

【ステップ4】
データ収集
・分析

【ステップ5】
評価結果の
報告・活用

【ステップ5】評価結果の報告・活用

- ◆ 評価結果は所定の様式にて財団理事長宛てに提出し、助成率の決定に活用します。
- ◆ 加えて、事業者にて、事業の改善等にも活用できます。

子供が輝く東京・応援事業 評価対象指標達成状況報告書 (記載項目のイメージ)

1. 事業名
2. 評価対象指標及び達成状況
 - ・ 指標
 - ・ 定義／計算式
 - ・ 目標値
 - ・ 実績値
 - ・ エビデンス・データ収集方法
3. 総括

東京都福祉保健財団
理事長宛てに提出
⇒ 助成率の決定に活用

事業者の内部において、
事業の見直し・改善に活用